

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 21人

② 算数 21人

5 留意事項

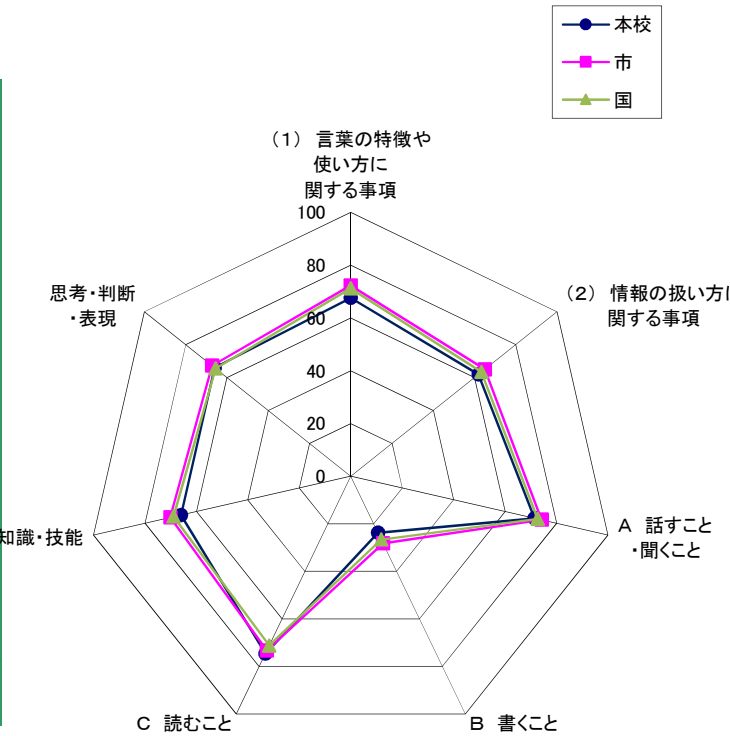
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.6	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	61.9	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	71.4	74.2	72.6
	B 書くこと	23.8	28.2	26.7
	C 読むこと	74.6	73.3	71.2
観点	知識・技能	66.0	70.2	68.9
	思考・判断・表現	66.0	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

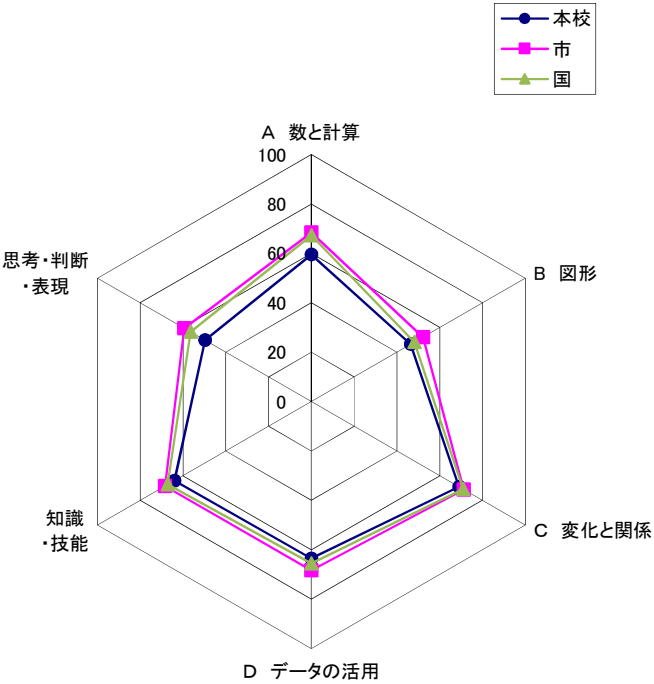
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や全国の平均より低い。 ○日常でよく使われる敬語を理解している。昨年度、敬語の学習を重点的に指導した成果であると考えられる。 ●同音異義の熟語や送り仮名が未定着な児童が多く見られた。 ●文章の種類とその特徴についての理解に課題が見られた。	○引き続き、日常生活の中でも敬語を意識した会話ができるよう指導していく。 ・間違えやすい同音異義の熟語や送り仮名を復習する機会を設け、再度確認する。 ・文章には「意見文」や「報告文」など、目的や読んでもらう相手などによって様々な種類があることを確認し、書く活動の際にはそれらの意識付けを図る。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や全国の平均より低い。 ○資料を見読み取り、原因と結果の関係について理解できている児童が多く見られた。 ●メモの取り方の資料を見て、どのような意図でメモを取っているかなど、情報の整理の仕方の理解に困難性が見られた。	・今後も、資料を読み取る活動を継続し、複数の情報の関係性について理解を深めていく。 ・資料を読み取る際に、集約的・多角的に読み取りながら、情報を整理していく活動を充実させていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や全国の平均より低い。 ○インタビューの仕方において、自分の聞きたいことを、より具体的に知るための聞き方は理解できている。 ●インタビューの仕方において、自分の理解が正しいかどうかを、相手に確認するための聞き方の理解が不十分であった。	・話し手の伝えたいことの中心や、聞き手の聞きたいことの中心を意識した話合いができるよう指導していく。 ・授業において、議論をする活動に重点を置き、その中で、どのように質問すれば自分の聞きたいことを聞くことができるかを、具体的に指導し、議論する力を高める。
B 書くこと	平均正答率は、市や全国の平均より低い。 ○グラフなどの資料をもとに、自分の考えを整理して書けていた。 ●事実と考えを分けて書くなど、整理された書き表し方に課題がある。 ●字数制限の条件に満たなかったり、無回答の児童が見られたりした。	・文章における事実と考えの違いを再確認させる。 ・事実と考えを区別した書き方を指導し、事実に基づいた考えの方が説得力が増すことを実感させる。 ・条件に合わせて文章を書く活動を多く取り入れ、書くことに対する抵抗を軽減していく。
C 読むこと	平均正答率は、市や全国の平均より高い。 ○目的を意識して、文章から中心となる語句や文を見つけて要約することができている。 ○文章と図などを結び付け、必要な情報を見つけ、資料を読み取ることができている。 ●文章を読んで、理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題が見られた。	・今後も、文章において、大切な言葉や文に線を引く活動を取り入れ、要約する力を高める。 ・引き続き、文章中にある資料にも注目させ、文章と資料を結び付ける学習を継続する。 ・感想文を書く活動を取り入れ、文章を読んで分かったことをもとに、自分の考えをまとめられるようにしていく。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	59.5	68.4	67.3
	B 図形	46.4	52.2	48.2
	C 測定			
	D 変化と関係	69.0	71.2	70.9
	E データの活用	63.5	68.3	65.5
観点	知識・技能	64.0	68.4	67.2
	思考・判断・表現	49.7	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○一の位が0の二つの2位数のかけ算を正確に計算している。日常的に計算問題に数多く取り組んでいる成果であると考えられる。 ●2位数÷1位数の筆算や分配法則を用いた計算の仕方の定着が不十分である。 ●長さを求めるとき、()を用いた式やたし算とかけ算の混合した式を立てることについて、場面と関連付けて考えることが不十分である。	・既習の内容をまんべんなく復習し、工夫して計算したり習熟を図ったりして、計算力を高めていくようにする。 ・日常生活の場面の中で、問題解決に式を用いることで解決できることの経験を積む必要がある。数値を求める際は、解決方法を思考したり概数を予想したりするなど、学んだことを生かして考えることに気付くような支援をしていく。
B 図形	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○高さが等しい三角形の面積について、正しく理解している児童が多い。三角形の面積を求める公式を自分たちで導く学習を取り入れたことが理解を深めたと言える。 ●正三角形と台形の意味や性質についての理解が不十分である。	・図形の観察や構成などの活動時間を十分に確保する。 ・観察や構成の活動を通して、直線の平行や垂直の関係と図形を構成する要素などを関連付けて、図形の性質や計量について考えることができるようにする。 ・実際に作図をするなどの活動を通し、図形を構成する要素やそれらの位置関係を基に、図形の構成の仕方について考えられるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取ったり、比例関係でないことを表の数値をもとに説明したりすることができる。数多くの問題を日常的に説いているため、比例の表についての理解が深まったと考えられる。 ●伴って変わる二つの数量について、比例関係であることを用いて、数量を求める式や答えを導き出すことにつまずきが見られた。	・日常生活の場面の数量の関係に着目して、どのような関係が成り立つのか予想したり、異なる数や場面になっても成り立つのか考えたりできるような教材を集めるようにする。 ・伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を考察したり規則性を見つけたりする活動を取り入れ、規則性を基に筋道を立てて考えたり数を求めたりできるようにしていく。
D データの活用	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○「以上」の意味を理解し、表から必要な数を読み取ることができている。学習した言葉を日常的に活用しているためと考えられる。 ●示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、違いを言葉と数で記述することにつまずきが見られる。 ●二次元の表から、条件に合う数の読み取りが不十分である。	・他教科の学習や日常生活の中で、目的に応じた適切な分類整理の仕方やグラフの表し方を判断できるようにする。 ・目的に応じてデータを集めたり、表やグラフに表したりする活動を、算数だけでなく他の教科でも取り入れることを紹介していく。 ・データの特徴や傾向をとらえ、結論を導いたり結論について考察したりする活動を他教科でも積極的に取り入れていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習時間についての設問では、平日、休日ともに95%以上の児童が学年でめやすとしている1時間よりも長く学習できている。これは、市・国の平均よりも高い。また、「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童の割合も8割を超えており、自分で内容面の充実を図ったり、それを組み立てたりする計画性が育ってきている。

○クラス全員が外国の人とコミュニケーションを取ってみたいという意欲をもっている。また、英語の学習が大切だと回答している児童も95%以上である。今後もALTと連携しながら、外国語の授業において児童が英語でコミュニケーションを取る時間を多く確保できるよう、授業展開を工夫していく。

○「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と全員が肯定的な回答をしている。本校の学校課題にも関連する項目であり、どの教科でも話し合い活動を取り入れている成果が表れている。今後も、話し合いの質の向上が図れるよう、自分の意見と他の人の意見の違いに気づき、意見を練り合う活動が行えるよう指導していく。

○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問で、肯定的な回答をしている児童は、95%以上であった。毎時間の授業やテストの振り返りを通して、振り返りの習慣が付いてきている。

今後は、児童がより何のために振り返りをするのかを意識できるよう、振り返りの視点をもたせるとともに振り返りが次の学習につながる単元計画をしていく。

●ICTの活用に関する設問では、肯定的な回答をしている児童が県・国の平均を上回ってはいるが、「学校で使用している頻度」や「家庭での使用時間」では、県や国の平均よりも少なく回答している児童がいる。ルールを徹底しながら、授業に積極的に取り入れたり、家庭学習として課題を出したりするなど、学習に生かすことができるようにしていく。

●「新聞を読んでいる」と回答している児童は19%と、県・国の平均を上回っているが、全く読んでいない児童が約6割いる。家庭学習で定期的に行っている作文の課題に新聞記事の要約を入れたり、学校図書館司書と協力し、児童が関心をもてそうな記事を掲示したりするなど、新聞に触れる機会を意図的に設けていく。

●「国語の勉強は大切である」と回答している児童は100%であったが、「国語の勉強が好きである」と回答している児童は81%であった。読むこと、書くことともに苦手意識をもっている児童も見られるため、児童とともに単元計画を立て、ゴールを明確にするなど、授業展開を工夫していく。

宇都宮市立上河内西小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度も、年度初めの懇談会で、家庭教育の重要性を学習指導主任より話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力を依頼している。	家庭学習については、9割の児童が学年でめやすとしている1時間よりも長く実施できている。これは、市・国の平均よりも高い。「自分で計画を立てて取り組んでいるか」については、8割の児童が肯定的な回答をしている。家庭での学習習慣が定着してきているので、さらに学びを自分のものとして捉えられるような学習方法を身に付けさせていく。
毎時間、各授業での振り返りとテストの振り返りを実施	主体的に学習に取り組む態度を育てるために、授業のねらいに沿った振り返りの視点を基に振り返りを書く活動を積み重ねた。テストにおいても、分析をさせることで、次につなげられるようにしてきた。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答している児童は、95%以上であった。分からなかったり、間違えたりした問題は必ず解き直すという習慣が図れてきている。また、毎時間の授業やテストの振り返りも習慣化されているが、何のためにするのかの意識が低い。振り返りの視点をもたせるとともに、振り返りが次の学習につながるような単元計画を作成していく。
授業における話し合い活動の充実	授業の中に意識的に話し合いの場を設け、互いの考えを伝え合うだけにとどまらず、友達の意見と自分の意見を比べて聞いて、考えを深めたり修正したりして練り合いながら話し合いが行えるよう指導している。	「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている」と回答している児童は8割であった。意見はもっていても発表を苦手とする児童も多いため、ICTなども活用しながら、話し合い活動の充実を図り、児童が友達と学ぶ楽しさを実感できるようにしていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「書くこと」の領域で市や国より低い。図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表すことに課題が見られる。	書く観点の明確化を図るとともに、推敲活動を取り入れる。	文章全体を見たときに、内容や表現に一貫性があるかなど、学年に応じた指導事項の観点を事前に児童に示す。様々な情報の中から必要事項を見いだし、結び付けて捉えていく活動などを学習の中に取り入れていく。
算数の「数と計算」の領域で市や国より低い。()を用いた式や加法と乗法が混合した式や分配法則を用いた計算などに課題が見られる。	計算方法の復習を取り入れ、文章を読み解き、立式する活動を行っていく。	整数同士だけでなく、小数や分数を混合した計算の仕方を繰り返し練習するだけでなく、文章で示されている場面を想起し、図に表すなどの方法を用いて、正しく立式できるようにしていく。